夕刊
磐城新聞
五月三十一日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢 一部金五錢
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

隨筆 ピアノ 下
平舊城跡畔 ケイ・ケイ生

ベートヴェンのソナーテがおもしろいのであります。ショパンのエテユードがおもしろいのであります。シユーベルトのアムプロムプテユがおもしろいのであります。ドビユッシーのプレリユードがおもしろいのであります

このやうな多くの曲の興味が私達ピアノの愛好者の一人にさせるのであります

曲さへおもしろかつたら、そして、ひととほり流暢にその曲を彈けば、まづ誰がやつても、たいていはおもしろく聞けます。それは個人個人によつて、曲の速さも違ふし、左右の手の强さも違ふし、また部分部分でいろいろな違つた彈き方をしますが、しかしそんな細かい事は私のピアノを好む上にはあまり大きな關係はありません

その道の專門家ではそんな事もピアノの演奏の大きな聞きどころとなつてゐてそれを『解釋』などといふ大げさな言葉で言はれてゐますが、私は別にそんな解釋などといふやうな餘計な眞似をしてもらはなくても十分です。ひととほり曲を彈いてくれさへすれば、曲そのものが十分私を喜ばせます

彈き方で曲そのものが非常に違つて聞えると考へられてゐますが、そしてそれは或る程度には事實ですが、しかし一般に考へられてゐるほどに、そんなに違ふものだとは思はれません

ピアノは何と言つても機械音樂の一種です。そしてこれが私のこの機械音樂の享樂のしかたです

磐城歌壇
新妻久滿夫選

『五月の空』 青葉露子

○咲き盛るこぶしの花よ窓ぎはに、鏡臺もちて紅をつけ込む

○わだかまりをりて心の晴るる日や、五月の空は目にしみてくる

○メタンなるガス發生にうかびたる、斧魚のいのちを悲しみ語る

○くつきりとみどりうつして行く水の、吸ひこまれつゝ水車のきしり

○庭隅の茗荷のたけを汁にそへ、いわし團子を君にまゐらす

小評 第二首上の句再考の要なきか。殊に作者は折々○○やといふ語法を用ふるが、こゝのやもいけないと思ふ。第三首一句二句廻りくどい表現で嫌味を感ぜしめる。第四首の『吸ひこまれつゝ』は實は『吸ひこみつゝ』水車が軋るのであらう。名詞止は何うかと思ふ。第五首少々氣取つた樣に見受けられるが佳い歌である。

隨意詠草の外左記題詠を募集す

一、霧。苺 一題二首以內

締切 六月六日

紹介
兒童文學
九月上旬創刊

最近の社會世相を見ますに、實に混沌として正しき方策なく、徒らに功利觀念のみ發達して、眞に大衆の生活、思想の向上進展を惟ふことの寡いのが今日の現狀であります。これがため純眞なる兒童の心に及ぼすその影響たるや實に大なることは、識者並にこれが敎育に直接携つてをられる人々のいたく心を碎いてゐる所であります。殊に讀物を通して兒童の心に傳はるその感化力は實に恐るべきもので、この點から觀まするると、今日程無定見に兒童の讀物が夥しく作り出され低俗不良の讀の洪水を來してゐることも未だ曾て見ざる所であります。茲に於て心ある人々は、尊き童心と淸き魂とを純眞爛漫のまゝに育くみ伸ばさしめて行かうと、常に淸新純粹な讀物を求めることに大なる努力を拂つてゐるのであります。然し月々發行される多數の月刊雜誌を觀るに徒らに頁數のみ多くして只兒童に低俗な興味と娛樂とを强いるばかりで、何等心の糧となり、情操の資となるものがありません

茲に顧みて、多年兒童文學に關心を有ち、絕えずその研究と創作とに專心精進して來た私共は此の度兒童自身の讀物として、また兒童文學に興味と關心を有たれる人々のために、月刊雜誌『兒童文學』を發刊して聊か斯道開發に盡したいと思ふのであります

特別寄稿家（イロハ順）
秋田雨雀、小川未明、北原白秋、北川千代、楠山正雄、坪田讓治、野口雨情

編輯同人 伊藤貴麿、石森延男、千葉省三、加藤輝雄、酒井朝彥、島田忠夫

（一部十錢稅二錢、編輯所東京市淀橋區上落合二丁目六七〇兒童文學社、發行所麻布區市兵衛町二丁目六一鳩居書房）

眞野御陵に詣でて
於佐渡 額賀褒

波風あらき
佐渡が島
磯の笘屋に
上もなき
尊き方の
おはしけむ
昔きくこそ
かしこけれ

○

陵の上になくなり時鳥佐渡のむかしを汝もかたるらむ

社會の今日

6月1日 △德川家昭地球儀を朝廷に上る（嘉永五）△第一回勸業債券を募集す（明治三二）△第六十二臨時議會△福田雅太郎大將急逝（昭和七）△大阪—ハルピン間無線電信開始△太平洋學術會議はヴイクトリアで開會（同八）

○

寢不足の腫れし瞼や夏鏡　都穗

新しき手織の單衣肌ざはりの、あらきもうれし衣がへする　みなかみ靜子

恒春に入る
伊東

一

五月二十日—溪洲よりバスに乘じ道程十八里、帝國の最南端恒春に入る、此街道思の外によく左右一里計りの處蕃人の住む中央山脈の流れ、九千尺の大武山を最後の高嶽として恒春迄はなだらなり、右は西部平野に連らなれど山と共に海に狹められいと雜なる景色なり、途中坊寮坊山車城等の宿あり、坊寮の奥ホンガツ蕃社には四百の人首現存し往時蕃風の遺跡として全島中こゝ一ヶ所を保存せしむと、途中往還には蕃人の行歸するに屢々會ふ、亦坊山は明治二十八年我海軍の土賊討伐に上陸せし處なり、バスの恒春に近づくに從ひ所々に四五間の長方形なる古き破壞された城跡が橋脚の如きは以前淸兵の屯して行人の番人に襲擊さるゝを防ぎ見張せし處なりと云ふ往く事二時間にして漸く城門に這入つて恒春庄に着しぬ

恒春は郡役所測候所等あり以前は陸軍小隊の分遣せられたるも今はなし、一郡三庄を合して人口二萬とか恒春庄には一萬の人口を數ふ、小學校には內地人子弟百五十人在學し、公學校は一、二里の近村よりも來つて本島人子弟七百名を算す

街の周圍には二十七町の城壁を繞らし四方に城門あり臺灣には各地に城跡として城門のみ遺されたるを見るも比較的完全なるはこゝのみなり、往時蕃人の屢々街を脅やかす爲に淸朝之を築きしなり

當地より東海岸に廻らんには牡丹灣に出て臺東に達するなり、牡丹灣に至る海岸道路は軍用に供すべく人稀なる所に八間幅の上道なり、若し一旦緩急ある場合外國の我臺灣を攻めんには防備なく波靜かにして海深く直に散兵に便なるは此牡丹灣と坊山海邊なりと云ふ

余等此度の遍歷は東海岸は廻らず、故に株更に同地方の狀況を探れり、東海岸とは基隆より東岸の臺北洲と花蓮港洲、臺東洲の三洲に別れ、此間蘇澳より花蓮港迄三十里、未だ鐵道通せず僅に數千尺の海岸に屹立する斷岩絕壁の中間に一臺の自動車を通ずるのみの道路あり、然も此道路僅に一尺に付三十圓を費せしと云へば其嶮推して知るべし

講談 浪人長屋
(101) 日岐武志作 月草道子畫

なるほど

お新はやうやく、おづおづと中に入つて坐つた。酒肴の膳を、前にしてゐた片腕のない男——玄內はぢろりと、お新を見た

『夜分、おいでを願ふて、まことに相すまぬことぢやつた』

落つきはらつた、錆のある聲

『いゝえ』

お新は、笑顏をつくつてちらりと玄內を見たが、すぐ膝に眼を落としてゐた

『どら、一杯』

一平は玄內のわきにあぐらをかいて坐ると、手酌で盃に酒をついでゐた

『お新どの、久しぶりだつた』

と玄內は、笑ひながらいつた

『………』

お新は、おやッとおもつておもはず顏をあげて、玄內をみた

玄內はにやつとしてゐた

——見覺のない顏だ

『どなたさまで、ございましたでせう』

お新は、じぶんの家に來たことのあるお客ではないかしらとおもつた。玄內はかたをゆすつて氣輕げに笑つてゐたが、お新の顏から目を外さなかつた

『お新どのは、わしの顏に記憶はないだらう。わしを見たことさへも、ないかも知れぬ。わしはお新どのを之まで追分で幾度びも見てゐる』

お新は男の顏をも一度みなほしたが、やはり見覺えのない男だつた

『では、あたし方ででも、お泊りなされたことでも』

『いや、ふくべ屋の前は通つたが宿泊したことはない！』

にやにやとわらつてる男が、お新には不氣味におもはれた

『ではわしの、本性を明かさう、但し、驚いてはいかぬ』

玄內はちらりと一平と目くばせしてから

『わしは、ついこのごろまで、輕井澤宿で、占ひ渡世をしてをつた龍雲齋鐵眼、本名は栗澤玄內と申す、どうぢや、きいたことのある名であらうぞ』

『えッ』

お新は、おどろいた

『では、あの、都築源三郎さまを……』

お新は、おもはず眼を見張つた

『いかにも、源三郎を殺害した玄內だ』

と、いつた、玄內の眼は急に、らん〳〵と輝き、きら〳〵とまばゆいやうな光りが、お新の眼を射てゐた

お新は、その光りに、眼がくらめき

『あーッ』

と、ひくい叫びをあげたがとたんにふと、がつくりと花がくづれるやうに、そこへ打ち伏して、氣を失つてしまつた

『フ、フ、フ、……』

玄內は、悅に入つて、かたをゆすつてゐた

『な—るほど』

一平は、正體もないお新の姿に見入つて唸るやうに、感嘆してゐた

『どうぢや、もう、この娘は、わしのものぢや、わしの、すきなやうになるのぢや、貴樣の、短銃などは、わしの妖術の前には、螢の紙燈じや、フ、フ、フ』

『な、なるほど』

と、一平、ひどく、感じ入つて

『さすが先生の、妖術だな ところで、この娘を手馴付けて、小菊さんをあッしの方へ——といふ約束は、大丈夫でせうな』

『心配するな、だが、明日まてまで』

『たのみませ』

と急に、腰をあげて

『さて、邪魔になるから、あッしは明日の朝まで、遠慮しやせうやれ〳〵先生、おたのしみで、へ、へ、へ、へ………』

交換事務修得

平局の電話事務員見習左記の八名はこの程今三十一日付卒業したが同局では中六名を詮衡して明日より採用他は追つて缺員出來次第補充するらしい

高梨ちか、川角サト、關根みち子、淺倉歌子、仙波妙子、鵜沼ヨシ子、永山みね、小幡道子

平靑年團協議

平靑年團では三日午後五時からマルトモホールに於て曩の總會に於て擧げた委員により團則改正委員會を開き愼重協議すると、又幹部會を同日午後七時から同所に開き郡評議員正、副員及び修養部、體育部兩部長並に理事選定に就いて協議すると

學事彙報

。。。。敎育會出席者詮衡。。。。 既報—來る十六、七の兩日福島市敎育會館に開かれる縣敎育會總會並に勅語奉讀式に平町各小學校では校長外二名宛出席するが目下人選中であると

。。。。古川視學來平。。。。 來る三日平第一校で開催の石城敎育部會總會には縣より縣視學古川佐壽馬氏が出席すると

。。。。聯合公開敎授。。。。 平町三小學校では聯合して來る十三四の兩日公開敎授を行ふが最も良い折であるから多數參觀されたいと

。。。。修養會改善協議。。。。 平三小學校職員よりなる修養會では來る四日打合會を開き內容改善に關して協議すると

。。。。實補敎育總會。。。。 石城實業補習敎育振興會總會は明後二日午前十時から小名濱校で開催されるが縣よりは實補敎育鹿山主事出席、講師には文部省宮本社會敎育官であると

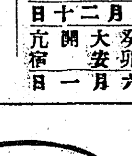
。。。。第一父兄懇話會。。。。 平第一校では來る二十二日は奇數學年二十三日は偶數學年の父兄懇話會を開くと同第二校では七月一日開くと

平署火災警防

平署では去る一月以降昨年より三回多い十二回の火災件數に鑑み來月四日を期し一齊に火災豫防を實施する事になつたがこの際竈室の暖爐煙筒、竈場、風呂場の火氣取扱ひ及小兒の弄火に特に注意されたいと

一日
日出 四、二七　月出後一〇、二三
日沒 六、五一　月沒前 七、二七
滿潮 前六、二〇 後九、一〇　干潮 前一、〇五 後一、三五

新 金曜 癸卯 六月 大安 一日 開 亢宿
舊四月二十日



運勢判定鑑 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神谷鑑

▲一白の人 虎口を脫れて安全地に入りたる如し病注意▲二黑の人 幸慶意外に一家一門をうるほす日開店旅行等吉▲三碧の人 萬事埒の明かざる日他の同情を失はぬが吉▲四綠の人 計畫手違ひを生じ易く進むに害あり病注意▲五黃の人 瀕死回生の思ひある日徐々と希望に進め吉▲六白の人 雄圖大に進行すべき日起業開店普請旅行吉▲七赤の人 常態を守りて他に心を移さゞれば平安なり▲八白の人 修練の功も臍をすえざれば全的もいがたし▲九紫の人 內憂外患交々至る諸事惡化の傾向を生ぜん

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

福山の景品附割引大特賣

移轉御披露

移轉祝として景品附割引大特賣仕り候間何卒御買求め下され度御願申上候

◎御買上の御客樣には移轉披露の爲五月三十一日まで洩れなく景品差上ます

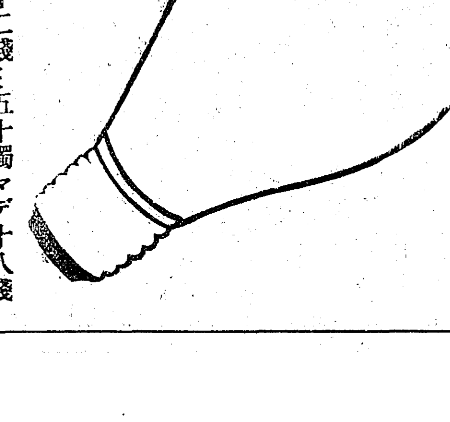
なほ電話一三一番を新設しましたから御利用下さい

自製革靴 各種カバン類 革製品一式 ゴム靴運動靴各種

平町二丁目六番地（山家メリヤス店向）
福山靴鞄店
電話一三一

石城酒造組合主催 唎酒會
優等入選
辰の口本店 平窪村（電話平二八五番）
販賣店 平町三丁目（電五四六番）

ガス入電球ノ値下ゲニ次グ又値下ゲ
十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院 眼鏡科
電話十九番



內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

縣下の爭覇戰を前に 磐中、平商野球部が精進

各指導者を招聘猛練習

來る可き縣下大會の覇權を目指して猛進中である磐中野球部では曩に池田、小林兩コーチを招き現在は過般來指導中の多田コーチに依り練習を續けて居るが守備は完璧に近き迄に至り打擊に今一段の進步を見れば多年待望の制覇もさして困難では無いと確信がついたらしく、尙來三日には午前五時三十分平發で水戶に遠征水商、水工等と對戰するが右に關し豐口副部長は謙遜して語る

水商は昨年甲子園に迄出陣した强チーム、水工亦侮り難いが勝敗を度外視して小手調べの態度で臨みたい。石川投手は投手としての練習が未だ日淺く既成品とは云はれないが今後の練習如何に依つて相當に伸びるであらうし、チームとしては今後打擊に專心すれば昨年以上の强チームたり得るであらうから縣下大會には尠くとも決勝戰までは行き度いと思つて居る

尙同校では縣下大會のグラウンドを選定中で、尙平商でも今年を逸しては大多數が卒業するため當分制覇の見込みなく今年こそはと目下猛練習を續け近く早大の横山名外野手を招く筈であると

。。。福鐵對磐炭野球。。。 來る三日午後一時から內鄕金坂グラウンドで行ふ

一丁目三丁目間鋪裝 愈々來月下旬から着工

豫算半減から初期計劃である一丁目—五丁目間の工事不可能になつた平町國道鋪裝工事は土木監督所及町當局で協議の結果今年度は既報の工費二萬圓を以て紺屋町所屬元警察署跡より一、二、三丁目迄行ふ事に決定したので町では今卅一日同地內地下埋設物(例へば簡易水道管)は凡て來月廿日迄地表より三尺三寸以上の深さに埋設方を監督所に指示を受けられるやう通牒を發した

當日は音曲停止 强制する事無く

自發的に遠慮させる方針

東鄕元帥に對する國葬儀は勅許あり次第政府に於いてその日取その他の次第を決定する筈であるが國葬當日は國葬令の定むるところにより廢朝仰出され歌舞音曲を停止される筈である內務省警保局では右に關し宮內省と打合せの上各府縣へ對し通牒を發し取締上の注意を促すこと〻なつてゐるが當日の歌舞音曲停止は前例により法規をもつて强制することなく興行者その他の自發的遠慮に待つやう警察當局より懇談する方針を執る意向である

元帥を悼む

平國防會から弔電

東鄕元帥の薨去に際し平國防研究會では今卅一日會長青沼平町長の名で左記弔電を發した

> 元帥海軍大將侯爵東鄕平八郎閣下の薨去を哀悼し痛惜極まりなし謹みて敬弔の誠意を捧げ奉る

凍氷値上

平地方で消費する凍氷は從來平、勿來兩製氷の對立から自然的に價格の統制が行はれてゐたが最近全然勿來ものの移入なく平製氷會社が獨占の形となつた許りでなく漸く需要季に入つた爲めか明一日より左記の如く各一錢の値上げを行ふ事になつたと

△一貫目十四錢 △二貫目以上十二錢 △六貫目以上十錢 △病院用一貫目十二錢

職員兒童が協力 第一校で奉仕作業

奉安庫と校庭美化

平第一校では明一日五年生一同の奉仕作業として午前九時出發、正午歸校で好間村上好間隅田川から一人拳大の石十ケ宛運搬し奉安庫周圍美化に努め、職員は之亦共同作業として明日午後一時から校舍前花園の芝生植付を行ひ、四日から一週間は每日午後三時から一時間半新校舍前庭を堀返し花壇作成に努めると

前後約一年半振りで 標準の理想額に回復

問題の石炭饑饉全く解消す

本年初頃より漸增の一途を辿つてゐた全國貯炭高は遂に四月末において標準理想貯炭たる百五十萬グラムトンを突破するに至つた、即ち八年度において敢行した三回に亘る石炭增送の効果は本年に入り漸次全國的に現れ加ふるに三月以降においては濁水による電力用炭の需要增加も解消し更に季節的石炭需要の減退も加はつて急速に貯炭額を增加し四月においては實に二十一萬餘グラムトンを增して遂に左の如く百五十二萬一千餘グラムトンと八年二月百五十萬グラムトン臺割れを演じて以來およそ一年半ぶりで常備貯炭額を回復した、右により昨年來石炭需要家を惱ましてゐた石炭饑饉もこ〻に全く解消されたわけで本年夏期不需要期末においては相當の巨額に達するであらう

平局執務改善計劃

結果如何を試驗中

仙臺遞信局管內一二等局では從來郵便、電話、保險等の縱斷的各部門に分割して居たが此の程民衆へのサービス改善に資する可く之を窓口、外勤、內勤等の横斷的に編成する樣成案を得目下試驗中であるが好結果を得れば平局でも來月下旬頃から實施するに至るらしい

頻發する交通禍

帽子と命の交換 助手台から墜ちた炭燒男

赤井村大字鹽田字江田四七炭燒業松本哲雄(四五)は今卅一日午前八時頃平町田町丸大運送店方運轉手同町紺屋町三居住高木貞道(三〇)の操縱せる木炭滿載の貨物自動車の助手台外側に乘り下小川村より磐炭に向け平窪村大字中平窪字横枕地內を疾走中、帽子を吹き飛ばされたので取らんとした際足を辷らして轉落頭部をメチャ〱に轢かれ即死したので平署から係官急行檢視した

人を避け店に闖入 小名濱で衝突二重奏

小名濱町橋本二二運轉手井上吉次(三〇)は一昨廿九日午後七時頃鮮魚トラック運轉魚市場より泉驛に向ふ途中同町定西地內で横合から飛び出した同町大橋秋喜(二五)さんと衝突後頭部に全治三週間の傷害を與へそのはずみに高木セン方の店先に飛び込み戶障子を破壞、平署で目下取調べ中

鰹益々豐漁

野島沖から快報

地方の鰹漁も愈々本調子になつて來たが縣指導船磐城丸は昨卅日千葉縣野島岬東南東二百三十浬沖合(水溫二十度八)に於て鰹四千本、ビン長一千本、江名缺厚丸は鰹五千本、ビン長一千本を釣獲、神奈川縣三崎に水揚引續き漁獲中である

。。。鵜沼君除隊。。。 平町八幡小路海軍水兵鵜沼時次郎君は今卅一日除隊明一日平着午後三時十七分下りで歸鄕する

明日から風待月

—古今の曆を繰る—

新樹、若葉の候から五月雨に憂さをかこつ木下闇の季節です、谷川瀨の清巒と田植の人々をバックにした新川堤、綠陰こまやかに風薫る邊り派手なパラソルをかざし行く又一枚殼を剝がれた少女の裝ひが美しいのも間近く。磐中、各炭鑛のプールをはじめ自然の泳ぎ場となる各川には記錄を競ふ裸形群像のめざましき跳躍が行はれる

(一日)舊ではまだ四月二十日、更衣、軍人、警官その他各學生は今日から全部若はズボン丈け夏服になる、鮎漁解禁、日光東照宮祭、平三小學校の修學旅行はこれに間に合せる筈の所都合で八、九日となつた、横濱開港記念、今市擧げてのお祭りだ(二日)天正十年森蘭丸、信長等本能寺に斃る(三日)石城教育部會總會の『生きる悲哀』の椎名氏講演、ペルリ浦賀に來る嘉永六年(四日)弘仁十三年叡山の創始者傳教大師逝く、一昨年關東地方を中心に大豪雨、第七回全國齲齒豫防デー(六日)昨年六丁目で火事三棟六戶を燒く(八日)同內鄕村議戰會場に殺到無効票檢分を要求して藤咲一派五名留置、新出前に火事(十日)時の記念日、昭和四年拓務省新設(十一日)安政元年日章旗を本邦總船舶の記號と定めた、昨年の今日磐陽野球戰(十二日)舊五月朔日、入梅京濱間鐵道開設明治五年(十三日)明智光秀誅せらる天正十年、昨年の今日選擧違反事件に平驛員二十名取調、小名濱疑獄第一回公判(十四日)違反事件擴大(十六日)明治二十五年小包郵便の始まり、昭和七年守田勘彌死亡(十八日)ウオートローの大戰は西紀一八一五(十九日)年號の始大化元年、去年六斗五升の大雨(二十日)フランス革命(廿一日)寬政五年林子平死す、明治三十四年星亨伊庭想太郎に刺さる(廿二日)夏至、太陽の赤道より北へ二十三度半に直射する處にありて晝最も長く夜最も短き時なりといふ(廿三日)國木田獨步逝く明治四十一年(廿五日)皇太后陛下御誕辰明治十六年(廿七日)滿月、高山彥九郎屠腹寬政五年(廿八日)大正三年墺洪國皇儲暗殺され世界大戰の發端をなす、昨年町議選擧違反判決(廿九日)明治二年招魂社を創立(三十日)昨年小名濱疑獄判決

月の異名水月、季月、伏月、焦月、水無月、涼暮月、松風月、風待月、鳴雷月、常夏月等

ガソリン車 小兒を傷く

湯本町天王崎品川白煉瓦會社職工末吉三男菊地喜四郎(一〇)は昨卅日午後零時半頃同町磐炭軌道附近で遊戲中誤つて折柄進行して來たガソリンカーにはね飛ばされ足及腰部に全治三ケ月の重傷を負ふた

奇特な主人

恩顧に背いた雇人に寬大な處置願ひ

平町材木町鐵工業吉野健助氏方職工吉田要三郎(二二)及馬上孝(十九)の兩名は共謀の上去る三月中同店より現金七十六圓を窃取逃走中去る廿八日埼玉縣川口署に檢擧されたが吉野氏は兩名の將來を思ひ寬大の處置方を今卅一日平署を通じ願ひ出た

衞生注意書

町役場から配布

曩に材木町より短期間のうちに七名の腸チブスを出した外デフテリア、猩紅熱の發生に少からず町民を脅威した傳染病は今後梅雨の警戒季に入るので町當局では近く蠅の驅除、飲食物の煮燒、食器の煮沸消毒、罹病時等の諸項を揭げた注意書を配布し之が豫防に努むる

元築港書記に一年半

けふ平支部で判決

元四倉港修築事務所勤務縣土木書記仙臺市東三番町一一金澤末丸方本籍福島市腰の濱阿內前四無職金澤四郎(三三)に係る公私文書僞造行使詐欺事件は今卅一日午前十時から平支部で中島裁判長係り、關口、岩佳兩判事陪席、新任吉岡檢事關與大高辯護士立會の下に公判開廷、昨日の檢事求刑二年に對し懲役一年六月を言渡された、尙縣より提出された千七百二十七圓二錢の損害賠償請求の附帶私訴は昨三十日辯護人の辯護の後續行、立會の國分縣屬との間に和解成立、被告より右金額を辨濟することになつた

若葉薫る杜の都から

平商兵舍見學隊通信

第三信

兵營生活第一日目の朝はほのぼのと明けそめ、あちらこちらでこそ〱と話聲が聞える。突!ラッパが鳴り響いた『起床ラッパだ!』『早く起きて外に出ろ』と云ふ班長の聲に皆、かい〱しく服をつけて外に出た、兵は皆体をこすつて摩擦をして居る。點呼を終へて洗面所に行く、何から何まで規律節制を旨としてゐる。七時半から兵の中隊教練が週番士官の指揮の下に行はれた、それを見學し徹底的の訓練に驚かされた。見學後兵營前の追廻練兵場に於て駒場先生指揮の下に中隊教練を行つた、皆んな本物の兵になつたつもりで。訓練後直ちに入浴、何とさつぱりとして氣持だ、この氣持を每日續ける兵隊さん達が羨ましく感ぜられた。午後所屬中隊幹部の援助を受けて狹窄射擊教育實施を受く、夕飯後外出を許されたそれは僕等の待ちに待つたことだつた、九時迄に大橋に集る事を約して友は皆三々五々連れ立つて市街に流れ出た、八木山、西公園と最近の遊技物に乘り廻した市街には仁丹、マツダランプ等々のネオンサイン、その他の電飾が輝き、カフエーからのジャズ、ソングは彌が上にも僕等の耳を衝いた。三越支店、見よその傍にデパート戰術と產業組合勃興にしをれしぼんで見える小商店を。東一番町、多門通り、大町を見物し九時集合歸營した(二十九日夜仙台第二大隊にて)

女將殺し四家に 原審通り懲役十三年

昨日宮城控訴院で判決

一昨年五月宮城縣石卷市住吉町一四五料理店角海老の女將千葉さつきを殺害した本籍豐間村八幡町四七當時石卷市住吉町新町一一一日野もゝよ方漁夫四家政男(三五)は仙臺地方裁判所の一審で懲役十三年の判決を受け控訴したので宮城控訴院で審理中の所昨三十日原審通り懲役十三年の判決を申渡され四家は更に上告する模樣である、なほこの事件の重要證人である四家の情婦千葉方抱酌婦日野よし子が自殺し四家はまたよし子を手に入れるために女將さつきを殺害するやうな無謀な手段はとらぬと飽まで無罪を主張してゐたこと等がこの事件の特徵である

弱震の弱で 性質稍々急

震源地は那珂川口

今朝の地震に就て小名濱測候所の觀測をきくに始期は八時四分十四秒、六分六秒に亙る弱震の弱性質稍々急で震源地は茨城縣那珂川々口附近震幅は例により計機の針が飛んで不明とある

三分の理で 公判を仰ぐ

平町禰宜町七木挽職黑沼健之助(五三)同正月町六日屋渡邊孫作(三八)大野芳家(四五)正月町一六木挽職瀨谷利司(三五)の四名は去る二十二日午後四時頃健之助方で十丹賭博をなし、渡邊、瀨谷は罰金二十圓に何れも此程平區より處分されたが、尙黑沼、大野の兩名は常習賭博で來る八日關口判事、淸田檢事係りで公判開かれる

元藝妓と舊主道の爭議

湯本町字三函八八商山崎武雄(四五)は同町藝妓屋蔦屋事高萩佐久馬方藝妓ヤス子(二三)を去る七年十二月五百圓で身受けしたがヤス子の所持品たる三味線臺外十數點(價格二百四圓)を渡さぬので昨卅日佐久馬を平署に告訴したが先方では何も殘つて居らぬと主張してゐるので今卅一日ヤス子の元朋輩佐藤テル外關係者を呼び出し取調べ中

。。鼠賊。。

茨城縣磯濱町明神町座古淸太郎(二四)は一昨廿九日午後八時頃小名濱町魚市場より自轉車一臺を窃取昨廿日平署に檢擧。又小名濱町後宿前科一犯埼山庄太郎(二四)は去る廿七日午後一時頃平町三丁目漆器商横幕仁三郎方徒弟磯部幸一が行商の途中湯本町字榮出道路地內に置いた自轉車及漆器類十三點(價格四十圓)を窃取昨卅日泉村飲食店富士方に於て逮捕された

法の裏道を行く

。。。。照魔鏡に映る世相色々。。。。

鑑札無しで山鳩を密獵

双葉郡長塚村大字長塚字福田迫五九農七出運藏(五四)は無免許で二月廿四、五の兩日同村ウシロザワと稱する山林中で鐵砲を使つて山鳩一羽を捕獲罰金二十圓

横着な屑屋 記帳を怠る

勿來町大字四澤字作田三六古物商藤田竹次郎(七九)は營業中と去月中二回某氏から電線、銅線、鐵屑等を買受けながら記帳を怠り、同上三圓

徒然に惡い手なぐさみ

勿來町大字酒井字出藏二〇雜貨商江名新太郎(五九)同所坂本清十方支柱夫綿貫喜代松(二九)の兩名は三月一日夜同字金澤清次郎方で八八賭博をなし新太郎は同上六十圓、喜代松は三十圓

五月人形賣出し

尙武日本を表象して若葉の空を泳ぐ鯉幟、武者人形も勇ましく陳列いたしました、是非御覽下さいます樣御願いたします

其他特製、御座敷幟、御陳道具、御太刀類

豐富に取揃特價に御願致します

平町三丁目 金太郎玩具店

五月武者人形大賣出し

例年通り特選の武者人形を始め古代人形各種、御座敷幟、布幟、其他御道具類一式

豐富、取揃へ陳列特賣致します。是非御來店の程御待ち致します。

平町本町通り三町目

落花生問屋 叶・加藤商店

—一丁目フクダヤの—

◎◎◎◎◎◎◎◎

五月人形鯉のぼり 大賣出し

かしこくも皇太子殿下と節句を同じうする光榮此の上なき御子樣を祝福しておなじみのフクダヤは奉仕的大勉强いたします。

武者人形 八十錢より

鯉のぼり 壹圓五十錢より

具足飾 貳圓五十錢より

御座敷飾セット 六圓より百五十圓迄